

## 特別活動の研究（その6）

－実践的指導力の育成を志向して－

生 野 金 三

（白鷗大学教育学部）

### I はじめに

教員に求められている資質能力をめぐっては、審議会において屢提言されている。例えば、それは平成9年の教育職員養成審議会の答申や平成18年の中央教育審議会答申等において強調（教員に求められている資質能力をめぐっては、『白鷗大学教育学部論集』（2008、2（1））や『白鷗大学論集 第22巻 第2号』等を参照）されている。教員に求められている資質能力の一端を前述した平成18年の中央教育審議会の答申を基に見てみる。答申では、「教員としての必要な資質能力の最終的な形成と確認」という項において、次のように指摘する。

教員として最小限必要な資質能力の全体について、確実に身に付けさせるとともに、その資質能力の全体を明示的に確認するため、教職課程の中に、新たな必修科目（「教職実践演習（仮称）」）を設定することが適当である<sup>1)</sup>。

ここでは、教職課程の中に新たな必修科目「教職実践演習（仮称）」を設定し、そしてそこにおいては教員として最小限必要な資質能力の育成を確認すべきであるとする。更に、答申は教職実践演習（仮称）において、教員として必要な資質能力の育成にあたっての授業方法をめぐって、

役割演技（ロールプレーイング）やグループ討論、事例研究、現地調

査（フィールドワーク）、模擬授業等を取り入れることが適当である<sup>②</sup>。としている。ここでは、教職実践演習（仮称）において模擬授業を導入するとしているが、これは教材研究、学習指導案・板書計画・発問計画・作業のプリント・教材等の作成等の授業設計より授業実施に至る一連のことを受講者である学生に体験せしめることによって教員としての実践的指導力の基盤の育成を志向しているに他ならない。

上記のことに鑑み、課程認定大学においては、学問の内容論や方法論を基盤に将来実践の場で柔軟に活用できる授業設計力や授業実践力（両者は、実践的指導力に内包）の基礎を構築するような授業内容や授業方法を適切に工夫する必要がある。

斯様なことを踏まえ、本研究では教員に求められている資質能力の育成（就中実践的指導力の基礎の育成）を志向し、教職に関する科目である「特別活動の研究」において授業を設計し、それを基に模擬授業を試み、そこで受講者である学生の教師としての力量（実践的指導力の力量）が如何に形成されたか否かを探ることを目的とする。就中本論では実践的指導力の中の授業設計力を中核に据えて論を展開する。

## Ⅱ 特別活動における模擬授業

### 1 模擬授業の基本的な考え方

模擬授業では、受講者である学生を児童に見立てて授業を行うことにした。学生は普段大学で学んでいる仲間（具体的には一年後輩の学生）を相手にして授業を行うことになる。授業設計の段階（学習指導案の作成に当たって、「題材設定の理由」「指導の研究」＜特別活動における＞等について解説を加える。）で指導者としてのあり様を学んでいるので、実際の授業の場では、それぞれのおかれた立場を認識しながら授業に参加することになる。そして、授業者は自分の題材解釈が学習者に受け入れられたか否か確認でき、一方学習者はいかに対応の仕方（対処）が授業者にとって重

要であるか否かを確認できる。斯様なことが豊かな授業理解、「授業を見る目」の育成にも繋がっていくと考える。

従来の模擬授業では、普段一緒に学んでいる仲間を相手にして授業を行ったが、今回はそうではなく嘗て「特別活動」の授業を学んだ学生が一年後輩の学生（具体的には、三年次の学生が二年次の学生を対象に）を相手に授業を行った。「特別活動」の模擬授業の実施に向けては、個々人で模擬授業を行うまでの間に学習指導案、作業のプリント、板書計画、発問計画、教材等を作成し、それについて検討する機会（教室において授業者に学習指導案に従って学習指導の展開の様相を短冊や資料を黒板に貼付させながら説明を加えさせ、それを基に検討一生野が指導）を設けた。その後検討会での指摘を基に、授業者には再度学習指導案を修正し、それに従って模擬授業を行うための諸準備を行うように指示した。授業者である学生は、これまで教科に関する「国語概説」の授業、教職に関する「国語科教育法」「特別活動の研究」等の授業において模擬授業を体験（授業者や受講者として）してきている。言うまでもないことであるが、今回の模擬授業に当たっては授業者である学生はこれらのことを踏まえて授業を設計し、そして実践を試みたのである。

## 2 特別活動における実践的指導力

特別活動における実践的指導力を考察するに当たっては、まず特別活動の教育意義について触れておく必要がある。特別活動は、集団活動を基盤として組織され、展開される教育活動である。それは、各教科や道徳や総合的な学習の時間等と学級集団を単位（これは特別活動の四領域の中の「A学級活動」において）として行われる場合と児童会活動、クラブ活動、学校行事等のように学級や学年の枠を越えた異学年、異年齢の集団によって行われる場合との二者に大別される。この集団は、単なる遊びの集団でなく、それぞれの集団の成員間には活動の目的が存在し、協力して実践していくことが期待される集団である。斯様に児童が種々の集団に所属して活動

することによって、所属する集団の維持向上に努めようとする態度、集団や社会の一員としての自覚、自己責任の自覚等といった人間関係の拡充が図られる点では、特別活動には他の教科等の追従を許さないものが存在する。

斯様なことに鑑み「特別活動」の授業を構想していくことが重要である。この授業を構想していく力こそが教師としての実践的指導力である。それは、授業設計より授業実施に至るまでの教師としての力量（具現すれば、それは「教育技術」あるいは「指導技術」と呼称される。）である。以下、前述した授業設計力と授業実践力の様相について触れることにする。まず、前者の授業設計力は、単元や題材の研究、教材の研究、学習指導観等とその基盤となる力量と、それを踏まえた学習過程の組織、学習指導案の作成、板書計画の作成、発問計画の作成等と授業の展開を構想する力との二者に大別される。一方、授業実践力は一単位時間の導入より終末までの一連の学習指導の流れを具体的に設計し、そしてそこで知識、技能等を習得させる教師の技法のことである。

斯様なことを踏まえ、「特別活動」では、授業に関して受講生である学生の豊かな理解を促し、授業者としての質を高めること等を目指し、授業を見る視点として「授業を受ける児童（学習者）の立場」「授業を行う授業者（指導者）の立場」等の二者を設定した。こうしたことが延いては実践的指導力の基礎の育成に繋がるであろう。

### Ⅲ 特別活動における実践展開の構想それに対する考察

#### 1 模擬授業を導入した実践の構想

以下に学生が模擬授業を行うに当たって、如何なる準備（授業設計をめぐって）を行っているかその様相の一端を掲げる。そして、それに考察を加える。

〈模擬授業を行うに当たっての準備状況〉

【授業者Tの準備状況】

● 学習指導案

（第2学年特別活動学習指導案 指導者 T）

- ① 題材 わすれもののぜろ大きくせん
- ② 題材設定の理由

児童は第2学年になって1ヵ月余りを過ごし、学校生活にも大分慣れてきて、学習面や生活面に積極的に取り組んでいるようである。しかしその反面、少しの気の緩みから忘れ物をする児童が目立つようになってきた。新学期当初から「忘れ物をしないようにしましょう。」と呼び掛け、前の日に時間割を見て準備するよう指導してきた。そして、忘れ物を頻繁にする児童には、忘れ物表でその数を確認させ、忘れ物をしないよう指導し、忘れ物をしない児童には、ご褒美シールを渡して励ましてきた。しかし、クラス全体の様子を見ると、忘れ物をしたら「自分が困る」「周りの友達に迷惑をかける」という意識がまだ希薄である。

この様なことを踏まえ、忘れ物をしてしまう原因や忘れ物をしないための方法を話し合うことで、忘れ物をしないことの良さに気づき、日常生活の中で自ら気を付け、そして充実した学校生活が送れることを願って本題材を設定した。

- ③ ねらい

忘れ物をする原因を話し合い、忘れ物をなくするためのアイデアを考えて実践することができる。

- ④ 本時

- (1) 準備 短冊、挿絵、ワークシート
- (2) 実際

過程	時間	主な学習活動	教師の支援																																																		
導入	10分	<div>1 忘れ物の実態に気付く。 ・ えんぴつ    ・ 赤えんぴつ ・ 消しゴム    ・ 下敷き ・ 教科書 くわすれものひょう&gt;</div> <table><tr><th>月</th><th>火</th><th>水</th><th>木</th><th>金</th></tr><tr><td>●</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>●</td><td>●</td><td></td><td></td><td>●</td></tr><tr><td>●</td><td>●</td><td></td><td>●</td><td>●</td></tr><tr><td>●</td><td>●</td><td>●</td><td>●</td><td>●</td></tr><tr><td>●</td><td>●</td><td>●</td><td>●</td><td>●</td></tr><tr><td>●</td><td>●</td><td>●</td><td>●</td><td>●</td></tr><tr><td>●</td><td>●</td><td>●</td><td>●</td><td>●</td></tr><tr><td>●</td><td>●</td><td>●</td><td>●</td><td>●</td></tr><tr><td>8人</td><td>7人</td><td>5人</td><td>6人</td><td>7人</td></tr></table> <div>2 忘れ物をして困ったことを発表する。 自分 ・ 体操着を忘れたから体育ができなくていやだった。 ・ 教科書を忘れたから隣の友達に見せてもらわなくちゃ。 ・ しっかり準備しておけばよかったな。 友達 ・ 見せてあげると教科書が見づらいな。 ・ 机をよせたり、面倒だから、忘れ物しないで欲しいな。</div> <div>3 本時の学習の目当てを確認する。 わすれものをなくする 作せんを 考えよう。</div>	月	火	水	木	金	●					●	●			●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	8人	7人	5人	6人	7人	<div>・ 勉強に必要な道具の挿絵を提示しながら、今日持ってきているかどうか確認させる。</div> <div>・ 忘れ物表を提示し、クラスの中で忘れ物をしている児童が多いということに気付かせる。</div> <div>・ 自分が忘れ物をした時と、隣の席の児童が忘れ物をした時の気持ちを考えさせ、それぞれ発表させる。</div> <div>・ 忘れ物をする「自分が困る」こと、そして友達に「迷惑をかける」ことに気付かせる。</div> <div>・ 本時の目当てを短冊によって提示し、そしてそれを一斉に読ませる。その後、それをワークシートに記入させ、目的意識付けをする。</div>
月	火	水	木	金																																																	
●																																																					
●	●			●																																																	
●	●		●	●																																																	
●	●	●	●	●																																																	
●	●	●	●	●																																																	
●	●	●	●	●																																																	
●	●	●	●	●																																																	
●	●	●	●	●																																																	
8人	7人	5人	6人	7人																																																	

展開	30分	<p>4 忘れ物をしてしまう原因を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前の日に準備しないで、朝、急いで準備してしまった。</li> <li>・連絡帳に持ち物をしっかり書いていなかった。</li> <li>・準備するのを忘れてしまい、前の日のままで来てしまった。</li> <li>・おうちの人にチェックしてもらわなかった。</li> </ul> <p>5 忘れ物をなくすための作戦を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・連絡帳をしっかりと書いて、それを見ながら準備をする。</li> <li>・前の日に準備をする。</li> <li>・時間割を見て準備をする。</li> </ul> <p>6 忘れ物をなくすための作戦を立てる。</p> <div data-bbox="322 890 619 986" style="background-color: #cccccc; padding: 5px;"> <p>前の日に れんらくちょうを見て おうちの人と用いをする</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・忘れ物をしてしまう原因を考えさせ、発表させる。</li> <li>・特に忘れ物をした日は、どのように準備したのかを思い出させる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「いつ」「誰と」「何を見て」等を発問に加え、より具体的な作戦を考えさせる。</li> <li>・発表内容を板書して、それをクラス全体で共有させる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合ったことをまとめて、クラス全体の忘れ物をなくす作戦を決めさせる。</li> <li>・クラスで決めた作戦を新たな学級目標にして実践させる。</li> </ul>
終末	5分	<p>7 学習のまとめをする。</p> <p>(1) 連絡帳を書く。</p> <p>(2) 連絡帳ルールを決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・書いたら先生に見せる。</li> <li>・家に帰ったら自分で見る。</li> <li>・おうちの人にサインしてもらう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・忘れ物をしないための作戦の中の「連絡帳にしっかりと書く。」「お家の人に確かめてもらう。」という作戦を実行させるために、連絡帳のルールを決め、実践させる。</li> </ul>

⑤ 板書計画 (    は短冊 )

めあて

わすれものをなくする 作せんを 考えよう

○ わすれものをしてしまう理由

- ・ 前の日に用いしなかつた。
- ・ れんらくちょうをしつかり書いていなかつた。
- ・ お家の人とたしかめなかつた。

○ わすれものをなくする作せん

- ・ 前の日に用いをする。
- ・ れんらくちょうをしつかり書く。
- ・ 時間わりを見て用いをする。

◎ お母さんとたしかめる。

○ ちゃんとれんらくちょうを書いておうちでそれを見て用いする。

作せん

まえの日に おうちの人と れんらくちょうを見て 用いする。

○ れんらくちょうを書く

十二月 五日 金 時

① さ ② 体 ③ 国 ④ 音

も うわばき 体そうぎ

れんらくちょうルール

① 書いたら先生に(見せる)。

② おうちに帰ったら自分で(見る)。


③ おうちの人に(サイン)をしてもらう。

⑥ ワークシート

わすれもののぜろ大作せん

二年 くみ 名まえ( )

めあて



わすれものをぜろにする作せん

①

②

③



⑦ ワークシート（れんらくちょう）

			12	がつ
			4	日
			木	よう日
		も 体 そう ぎ	時 ① 国 ② さ ③ 体 ④ 音	れんらくすること がら

二ねん（ ）くみ 名まえ（ ）

⑧ 発問計画

- T 1 日直さん号令お願いします。
- C 1 気を付け。礼。お願いします。
- T 2 それでは、みなさん、勉強する時に必要なものは何か分かりますか。
- C 2 鉛筆。
- T 3 （挿絵を提示）はい。そうですね。鉛筆は、みなさん持っていますか。他にはありますか。
- C 3 教科書
- T 4 そうですね。教科書も必要ですね。他にも、赤鉛筆、消しゴム、下敷き、はさみなどが必要ですね。（挿絵を提示）ここに出てきた勉強に必要なものをみなさんは今日持ってきていますか。持っている人は、机の上に出してみてください。

- C 4 (机の上に置く。)
- T 5 あれ、下敷きやはさみを忘れた人が多いようですね。では、この表を見て下さい。この表はクラスの中の何かをしてしまった人数を表しています。何の人数でしょうか。(表を提示)
- C 5 忘れ物をしてしまった人数。
- T 6 そうです。この表は、私が一週間、忘れ物をした人の数を調べたものです。この表をみて何か気付いた人はいますか。
- C 6 忘れ物をする人が多い。
- T 7 はい。そうですね。忘れ物をする人が多いですね。他にありますか。
- C 7 毎日、誰かが忘れ物をしている。
- T 8 はい。そうですね。毎日多くの人が忘れ物をしていますね。それでは、今週一度も忘れ物をしたことがない人はいますか。
- C 8 はい。
- T 9 何人かの人は、今週忘れ物をしなかったのですね。今、手が挙がった人は素晴らしいですね。それでは、今からどんな忘れ物をして、その時どんな気持ちになったか発表してもらいたいと思います。では、発表してくれる人いますか。
- C 9 はい。
- T 10 ○○さんお願いします。
- C 10 体育着を忘れてしまって。体育ができなくてどうしようと思いました。
- T 11 そうですか。どうしようって困ってしまったんだね。他にありますか。
- C 11 はい。
- T 12 はい。お願いします。
- C 12 教科書を忘れてしまって困りました。
- T 13 そうですね。教科書を忘れると困ってしまいますよね。そのとき、○○さんは、どうやって授業を受けましたか。
- C 13 隣の席の友達に見せてもらいました。
- T 14 そうですか。二人で見て、教科書は見易かったかな。
- C 14 見難かった。
- T 15 そうですね。二人でみると見難いよね。そのとき、友達はどうな気持ちでしたか。
- C 15 教科書が見難くていやだなと思ったと思います。
- T 16 そうですね。きっと、見難くて、ちょっと迷惑だなって感じたかもしれませんね。忘れ物をしてしまうと、自分も困ってしまいますよね。そして、周りの友達にも迷惑をかけてしまいます。そうすると、いやな思いもするし、勉強もすっかりできませんね。そこで、今日は、みんなで忘れ物をなくすために作戦を考えていきましょ

う。めあてを発表します。（短冊を提示）今日のめあては、「わすれものをなくする 作せんを 考えよう。」です。それでは、みんなで大きな声で読んでみましょう。さんはい。

C16 「わすれものをなくする 作せんを 考えよう。」

T17 はい。みなさん大きな声で上手に読めましたね。それでは、ワークシートのめあてと書いてあるところに、このめあてを書いて下さい。（机間指導）みなさん書きましたね。次に進みます。それでは、みなさんどうして忘れ物をしてしまうのだと思いますか。忘れ物をした日の前の日を思い出しながら考えてみて下さい。誰か発表してくれる人はいいますか。

C17 はい。

T18 ○○さんお願いします。

C18 前の日に準備しないで、朝準備してしまいました。

T19 そうです。朝準備すると、急いでいて連絡帳をしっかりと見て準備できませんよね。他に発表してくれる人いますか。

C19 はい。

T20 ○○さんお願いします。

C20 連絡帳に持ち物を書き忘れてしまいました。

T21 そうですね。連絡帳にしっかりと書かないと忘れ物してしまいますよね。他にはありますか。

C21 はい。

T22 はい、○○さん。

C22 お家の人と一緒に準備しなかった。

T23 そうですね。お家の人と一緒に用意すれば、忘れ物しないで済んだかもしれませんね。みなさん、どうして忘れ物をしてしまうかが分かりましたね。

T24 それでは、どうすれば忘れ物をしなくなるかなということをみんなで考えていきましょう。忘れ物をなくするためにどんなことをすればよいですか。考えるポイントは（短冊を貼る）「いつ」準備するのか、「誰と」準備するのか、「何を見て」準備するのか等です。一つでもよいです。何か思いついた人はいいますか。

C23 はい。

T25 はい、○○さん。

C24 前の日に準備をすればいいと思います。

T26 （板書をする）なるほど。前の日に準備すれば、朝慌てて準備なくてすみますね。今○○さんは「いつ」準備すれば良いか発表してくれました。他の二つで何かありませんか。

C25 はい。

T27 はい、○○さん。

C26 時間割や連絡帳を見ながら準備をする。

T28 (板書をする) そうだね。時間割や連絡帳を見れば何を準備すれば良いのか分かりますよね。今は「何を見て」について発表してくれました。あと「誰と」準備すればよいか思いつく人いますか。

C27 はい。

T29 はい、〇〇さん。

C28 お母さんと準備をする。

T30 (板書をする) はい、お母さんと準備するとチェックしてもらえるので忘れ物がなくなりますね。お母さんじゃなくてもお父さんでもおじいちゃんでもおばあちゃんでも、誰かお家の人と準備すれば良いと思います。はい、忘れ物をなくすためにどんなことをすれば良いかなということを考えてきました。みんなもこのようなことが考えられましたか。それでは、今までみんなが考えたたくさんの作戦を確認してみましょう。また「いつ」「誰と」「何を見て」というヒントを使って考えていきたいと思います。まず「いつ」準備すればよいのかな。では、〇〇さん。

C29 前の日。

T31 (板書する) はい。じゃあ次の日がお休みの時はいつ準備すればいいですか。

C30 学校の前の日。

T32 そうですね。学校の前の日ですね。次に、「誰と」ですね。誰と準備すればよいですか。はい、〇〇さん。

C31 お家の人と。

T33 (板書する) はい、お家の人と準備すれば忘れ物を減らせますね。そして、「何を見て」準備すればいいだろう。最後はみんなで、さんはい。

C32 連絡帳を見て。

T34 (板書する) はい。学校の前の日に、お家の人と、連絡帳を見て、準備をする、という作戦にまとまりました。それではこの作戦をワークシートに書きましょう。

C33 (ワークシートに記入)

T35 みなさん書きましたね。大きな声で一斉に読んでみましょう。さんはい。

C34 学校の前の日に、お家の人と、連絡帳を見て、準備をする。

T36 はい、これが二年〇組のみなで考えた忘れ物をなくす作戦です。今、決めた作戦はお家に帰ってから気を付けることですが、その前に学校でやっておかなければならないことがありますね。それはどんなことですか。

C35 連絡帳を書くこと。

T37 そうですね。みんながしっかりと連絡帳を書いて、それをお家の人と見るができるようにと連絡帳ルールを決めました。ワーク

シートの一歩後ろ、連絡帳ルールの①②③のところにこの言葉を書きましょう。（短冊を貼る。）

C36 （ワークシートに記入）

T38 みなさん書きましたね。大きな声で読んでみましょう。

C37 ① 書いたら先生に見せる。

② おうちに帰ったら自分で見る。

③ おうちの人にサインをしてもらおう。

T39 はい、大きな声でよく読むことができました。最後に、この作戦の初めの一歩として、みんなで連絡帳を書きましょう。（短冊を貼る。）連絡帳のワークシートを見て下さい。連絡帳の書き方の例がのっていますね。「時」は時間割で、「も」は持ち物ですよね。月曜日の時間割は算数、体育、国語、音楽です。そして次に学校に来るのは月曜日なので上履き、体操着も忘れないようにしましょう。

C38 （連絡帳を記入。）

T40 みなさん書きましたね。今日、みんなで決めた作戦をしっかり守って、次の月曜日にはみんなの忘れ物がゼロになるようにしましょう。これで授業を終わりにします。号令をお願いします。

## 2 学習指導案・発問計画等に対する生野の考察

### ● 学習指導案について

「ねらい」について——「ねらい」においては、まず取り扱う題材をめぐっての学習者の実態（具現すれば問題となる原因の把握）を基に問題の意識化を図り、そしてその解決策について検討を加え、実践への方途について述べている。

「準備」について——本時の目標を達成するために必要な教材を具体的に掲げている。

「実際」について——表の形式で本時の学習の全体像を述べている。「過程」は、「導入→展開→終末」と最も基本的な流れを述べている。「時間」は、活動の節目に入れている。「主な学習活動」の部分では、目標に迫るための順序を過程に沿って、学習の活動を述べている。そして、学習の方法（「ワークシート」に記入させ、目当てを意識付けさせる。）や形態（忘れ物をしてしまう原因を考えさせ、それを発表させる。）も述べている。

「導入」の段階では、「1 忘れ物の実態に気付く。」と「2 忘れ物を

して困ったことを発表する。」と「3 本時の学習の目当てを確認する。」等の三者の観点より述べている。各教科における学習活動は、導入の段階においては既習内容のとの関わりで本時の学習の目当てを設定していくのが一般的である。しかし、一単位時間内で完結する学習指導の場合、導入の段階においては、学習者の学習面や生活面の実態より問題の共有化を図って本時の学習の目当てを設定していくのが一般的である。斯様なことに鑑み、授業者が組織した導入の場面に目を転じてみると、まずは「主な学習活動」に「1 忘れ物の実態に気付く。」「2 忘れ物をして困ったことを発表する。」とあるように学習者の忘れ物の実態を表によって具体的に提示し、そこから問題の共有化を図り、そしてその原因を探ることによって問題の焦点化を図っている。更に、これとの関わりで本時の学習の目当てを設定している。これによって学習者は、本時の学習への意識がより高まるであろう。斯様なことより「導入」の段階での展開の構想は概ね望ましいといえよう。

この「導入」の段階における具体的な展開の様相は、「発問計画」において見ることができる。それを一覧するとき、学習活動の1の場面は多少検討の余地が存在する。その様相を具体的に見てみる。まず、学習活動1の「忘れ物の実態に気付く。」活動においては、T2（「発問計画」の。以下同じ。）で学習に必要なものを問うた後、忘れ物表（忘れ物の実態の様相）を提示し、T6で「何か気付いた人」と問うて、問題の共有化を図ろうとしている。しかし、その後の展開の様相を「発問計画」より見てみると、そこでは学習者の忘れ物に対する意識を高揚するには至っていないようである。それは、T8で「毎日多くの人が忘れ物をしていますね。」とこの場面をまとめ、それで終わって次の展開へ進んでいるからである。ここでは、忘れ物の実態について、忘れ物表を基に曜日毎にもう少し解説を加えても良かったように思う。前述の如く学習活動2と3の展開の構想は概ね望ましいとした。そのことは、「発問計画」を見ても窺い知ることができよう。前者の学習活動2においては、忘れ物をして困った時の様相を

「自己」と「他者」の二者の観点より思索させているからである。これによって学習者は問題の共有化を図ることができよう。一方、後者の学習活動3においては、目当てを短冊で提示し、そしてそれを一斉に読ませ、更に目当てをワークシートに書かせるという三段構えで展開を構想しているからである。これによって学習者はより目的意識を持つことができよう。

次いで、「展開」の段階の様相を見てみる。「展開」の段階は、「4 忘れ物をしてしまう原因を考える」と「5 忘れ物をなくするための作せんを話し合う。」と「6 忘れ物をなくするための作せんを立てる。」等の三者の観点より述べている。ここでは、課題解決型の過程を取っている。まず、学習活動4の場面において、本時に取り扱う問題についての原因を探る段階（学習の目当てを解決するために忘れ物をする原因を思索する段階）、次いで学習活動5の場面において、学習活動4で探った原因を基に問題解決法を探る段階（忘れ物をなくするための方法を探究する段階）、更に学習活動6の場面において、学習活動5の内容を整理する段階（忘れ物をなくするための作戦を立てる段階）と目当てを解決するための具体的な活動を述べている。この「展開」の場面ですべて問題の原因を探り、次いでそれを基に問題への対処方法を探っている。斯様なことより「展開」の段階での学習の構想は概ね望ましいといえよう。

この「展開」の段階における具体的な展開の様相は、「発問計画」において見るができる。それを一覧するとき、学習活動5の場面において多少検討の余地が存在する。その様相を以下に見てみる。まず、「発問計画」に目を転じてみると、そこでは「……みなさん、どうして忘れ物をしてしまうかが分かりましたね。」（T23）という発言内容で学習活動4の内容（忘れ物をする原因を探る。）をまとめている。そして、「それでは、どうすれば忘れ物をしなくなるかなということをみんなで考えていきましょう。忘れ物をなくするためにどんなことをすればよいですか。」（T24）と問うて学習活動5に進んでいる。この場면을学習者への内容の定着という観点より見てももう少し検討の余地が存在する。ここでは、T24の発言を

踏まえて学習活動4の内容（忘れ物をする原因を探る。）の全体を板書等で確認し、そしてそれを踏まえて忘れ物をなくする作戦を個々人（あるいはグループで）検討する活動を設ける必要があったように思う。本時のねらいに鑑み学習活動5は本時の中核となる内容である故、斯様な観点からも指導の展開の工夫がもう少し必要である。学習活動4では、三者に亘って「忘れ物をしてしまう原因」を確認している。これらを踏まえ、まずは個々人（あるいはグループ）で思索させ、個々人（あるいはグループ）の作戦を構築させることである。斯様な作業を踏まえ、それを発表し合うことで忘れ物をなくする作戦の話し合いがより深まると考える。と同時にその過程においては、学習者の発言する機会も増え、学習者同士が討論する場も構築することができるのである。そして、学習者主体の学習活動が展開でき、教師主導の学習指導が払拭できるのである。

「終末」の段階では、「6 学習のまとめをする。」という観点より述べている。ここでは、本時の学習内容を「(1) 連絡帳」に書いて学習内容を確認する段階と、そして「(2) 連絡帳のルール」を決めて実践への方途を明確にする段階というところにその特徴が認められる。ここでは、個人や集団の目標化や実践へ方途を構想している故、概ね望ましいといえよう。

この「終末」の段階における具体的な展開の様相は、「発問計画」において見ることができる。そこでは、T37「……ワークシートが一番後ろ、連絡帳ルールの①②③のところに、この言葉を書きましょう。」と連絡帳のルールを確認させた後、T39「最後に、この作戦の初めの一步として、みんなで連絡帳を書きましょう。」と連絡帳を認める活動の展開となっている。これは、授業設計の段階で構想した流れと軌を一にしていなのである。「展開」の段階の学習活動5と6の内容を念頭に置く時、ここではまず「連絡帳に書」き、次いで「連絡帳のルールを決める。」という学習の組織が良かったように思う。それは、実践への方途は個々人が連絡帳に認めることが前提となるからである。



## Ⅳ 「実践的指導力」の育成をめぐって

第Ⅱ章では、模擬授業を視野に入れ、授業者が作成した「学習指導案」と「発問計画」等をめぐって考察を加えた。以下授業者の「実践的指導力授業」、就中「授業設計力」の基礎の一端が如何に育成されたかその様相を見てみる。（授業者のポートフォリオを基に）

授業設計力をめぐって授業者は、「学習指導案」「実態把握」「発問計画」「板書計画」等の内容を指摘している。まずは、それぞれの項目において授業者が如何なる授業設計力に関わる内容を掲げているか整理してみる。

### 〈授業設計力〉

- 学習指導案
  - ・学習者が思考することによって内容を深めるような場面を設けることである。
  - ・実践の場面につながるような学習内容を掲げることである。
- 実態把握
  - ・児童の実態把握が問題解決には不可欠である。
- 発問計画
  - ・児童の学習意欲を喚起するような動機付けを行うことである。
  - ・問題意識を持たせ、思考させるような発問を準備することである。
  - ・児童の反応に的確な働き掛けをすることである。
- 板書計画
  - ・短冊等で目当てを提示し、視覚的に訴え、問題を共有化させるような板書が重要である。

### 〈考察〉

まず、授業者は学習指導案には、学習者が思考して内容を深化する場面

を設ける必要があると指摘する。斯様なことは、学習指導案を作成することによって学習者である児童の個々人の学ぶ道筋を重要視した学習指導を展開することができ、そしてその過程において内容の深化を図ることができるといったその役割に鑑みると、至極当然のことである。そして、言うまでもないことであるが、特別活動の学習指導案には「終末」の段階に実践への方途を位置付けておくことである。それは、特別活動の目標（自主的、実践的態度の育成）を念頭に置くとき、当然のことである。斯様な把握の観点より見ても、授業者が指摘する「実践の場面につながるような学習内容を掲げること」というのは重要なことである。

次いで、授業者は授業を設計する際には学習者である児童の実態把握が必要不可欠である指摘する。これをめぐっては、授業者が「題材設定の理由」に部分にも認めている如く、特別活動の学習指導を構想する際、前提となるのは言うまでもなく学習者である児童の学習面や生活面の実態の様相である。学習者である児童の実態を捉え、それを基盤に学級活動、そして学校生活が楽しく充実しものになることを志向して特別活動の指導するのが一般的である。斯様なことから学習者の実態把握が問題解決に必要な不可欠であることが理解できよう。

更に、授業者は授業を設計する際には発問計画を作成することの重要性を指摘する。学習指導は、授業者である教師と学習者である児童との相互の発問（発言も含む。以下「発言・発問」とする。）を中核に据えて展開される。その教師の発言・発問は、授業の成否を決める重要な鍵であると言及されている。そして、それは一つの教育技術（指導技術）として重要視されている。斯様なことから学習指導における教師の発言・発問は極めて重要なことが分かる。授業者の指摘する発言・発問の目を転じてみると、そこでは「学習への動機付けをする力」（児童の学習意欲を喚起するような動機付けを行うことである。）、「学習者の意見を明確にする力（思考場面の設定）」（問題意識を持たせ、思考させるような発問を準備することである。）、「発言に柔軟に対処する力」（児童の反応に的確な働き掛けを

することである。）等について触れている。このように教師の発言・発問は学習である児童の学習方法に大きな影響を与えることになる故、予め十分検討を加え、そして学習の流れの一貫性が存在するようにしておくことである。

最後に、授業者は授業を設計する際には板書計画を作成することの重要性を指摘する。板書は、教育機器が発達した現在においても、教室で行われる学習指導においては極めて重要な視覚的メディアである。それは、学習者である児童生徒の学習活動を刺激し、学習過程を一層有効に進め、そして学習効果を高めるために具体的手段であるからである<sup>③</sup>。斯様に板書は、教授＝学習過程の際に重要な機能を果たしていることは否めない事実である。授業者は、「導入」の段階の問題の共有化における板書の重要性を指摘しているが、これも当然重要なことである。学習への内的動機付けという点からみても重要であることは論を俟たない。

## V おわりに

表題に示した如く、本稿は「実践的指導力」の育成をめぐる研究である。本稿は、前述の如く教職に関する科目である「特別活動の研究」において、模擬授業を視野においた授業設計を試み、そしてそこにおける授業者の「授業設計力」（「実践的指導力」の中の）の様相を探ったものである。第Ⅲ章において触れた如く、授業者は授業実践を想定し授業を設計する力量の一端を指摘する。それは、前述の如く「学習指導案」「発問計画」「板書計画」、そして学習者に確かな学力を育成する前提となる学習者の実態把握をめぐる内容である。指導者は斯様な力量を身に付けておく必要がある。

就中、今回の研究において授業者は「教師の立場」に「児童の立場」を重ね合わせながら授業を構想していることが分かった。ここでは、教える立場と学ぶ立場の両者の視点で授業を捉えことになる故、「実践的指導

力」の育ちの一端を認めることができた。

上記のように「実践的指導力」の育ちの一端は認められたが、しかし又新たな課題も見出すことができた。それは、言うまでもなく前述した授業設計の他の力量の形成である。斯様な課題をめぐっては稿を改めて論じることにする。

### 〔注〕

- (1) 教育職員養成審議会 1997年
- (2) 同上書
- (3) 東洋他監 『授業改革辞典 ③ 授業の実践』 第一法規 pp. 55参照。